

黄色ブドウ球菌

による乳房炎の防除

黄色ブドウ球菌は伝染力が強い
うえに治療が困難なため、一度牛
群に蔓延すると、乳量の減少や乳
牛の淘汰など、様々な経済的損失
を引き起こします。

一 黄色ブドウ球菌の特徴

黄色ブドウ球菌（スタフィロコ
ツカス アウレウス…以下SA）
は次に示すような特徴を持ってい
ます。

- ・傷やただれ等に繁殖
- ・強い伝染力をもつ
- ・感染牛の乳汁に存在し、搾乳者
の手、乳頭清拭タオル、ミルカ
ーを介して牛群に伝染
- ・乳房内でしこり（バリア）をつく
り、薬が効きづらい
- ・大腸菌性乳房炎などとは異な
り、急激に体細胞数は上昇しに
くい（おおよそ二〇〇、一〇〇万
個／㎖）

二 SA乳房炎対策

① 実態把握

バルク乳スクリーニング検査を
行い、SAに感染している牛が存

在するか確認しましょう。

バルク乳スクリーニング検査で
SAが陽性の場合、どの個体や
分房がSAに感染しているか乳汁
検査で特定します。

また乳検成績で、三カ月以上連
続して体細胞数が高い牛も、SA
に感染している可能性が高いで
す。

② 治療

初産・二産牛であれば治癒する
可能性があります。特に乳腺組織
が再生する乾乳期は治療効果が高
い傾向にあります。

③ 淘汰

SAは治療してもなかなか直り
づらいため、慢性牛の淘汰や感染
分房の盲乳を検討しましょう。

※治療・淘汰に際しては、農協担
当者やNO SAI獣医師と相談
してください

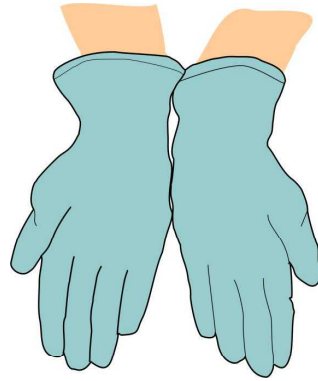
④ 予防

SA牛を最後に搾乳

SAはミルカーを介して牛群に
伝染していきます。SAに感染し
ている牛を最後に搾乳し、新たな
感染を防ぎましょう。

搾乳手袋の使用

搾乳手袋は表面が滑らかで、素
手に較べ汚れが落ちやすいため、
手を衛生に保ち、人間からの感染
を防ぎます（図一）。



図一 搾乳手袋

一頭一布

一枚のタオルを使い回すこと
は、SAを牛群に伝染させること
に繋がります。搾乳回数以上のタ
オルを用意しましょう。

過搾乳の防止



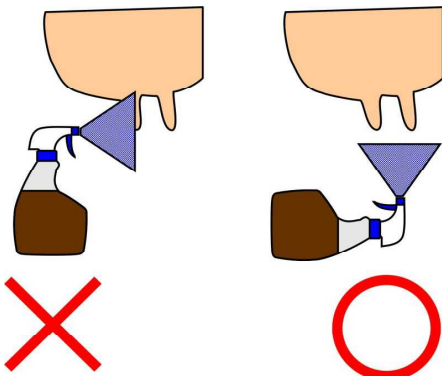
写真一 乳頭先端の傷
（花が咲いた状態）

最後の一滴まで搾ろうと、いつ
までもミルカーを掛けていると過
搾乳となり、乳頭口が開いたり、
突出・ひび割れするなど、乳頭先
端が傷つきます（写真一）。

ポストディッピング

乳頭口を殺菌・粘膜保護のた
め、ミルカー離脱後、直ぐに乳頭
をしつかりとディッピングしまし
よう。

ノンリターントタイプのディッパ
ーは、薬剤を使い回さないように
しましょう。スプレータイプは、
乳頭全体に薬剤がかかるように注
意しましょう（図二）。



図二 スプレータイプのディッパー
左：側面のみ 右：乳頭全体

内容に関してご不明な点があり
ましたら、普及センターまでご連
絡下さい。（平成二五年十一月）